

STAGE+を楽しむ(162)(HP 収録)

—クライバーのベートーヴェン、モーツァルト、ブラームス—

1. 始めに

前報(161)に引き続き、STAGE+のクライバーによる《コリオラン》序曲とモーツァルト第 33 番、ブラームス第 4 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、クライバーによる《コリオラン》序曲とモーツァルト第 33 番、ブラームス第 4 番の演奏を選びました。

クライバー&バイエルン国立管によるベートーヴェン《コリオラン》序曲とモーツァルト第 33 番、ブラームス第 4 番

ミュンヘン、ヘルクレスザール

収録日: 1996 年 10 月 21 日

20 世紀の終わり頃には神格化され、めったに指揮台に立たなくなったために演奏会の予定が発表されるだけで大きな話題を呼んでいた晩年のカルロス・クライバーの極めつけ映像をお届けします。こちらは 1996 年 10 月 21 日にミュンヘンで行ったレオ・キルヒ (※ドイツのメディア起業家) 70 歳記念コンサートをライブ収録したものです。名匠が最も信頼していたバイエルン国立管弦楽団を指揮しベートーヴェン、モーツァルト、ブラームスといったお気に入りのレパートリーで円熟の極みともいえる名演を披露しています。特にブラームス後半での気迫に満ちた姿は必見です。

演奏:

バイエルン国立管弦楽団

指揮:

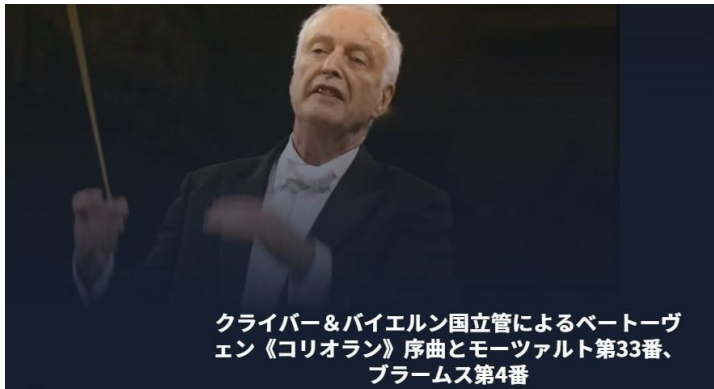
カルロス・クライバー

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 序曲《コリオラン》 op. 62

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 交響曲第 33 番変ロ長調 K. 319

ヨハネス・ブラームス 交響曲第 4 番ホ短調 op. 98



さらに、同じマスターからと思われる DVD がありましたのでこれも聴いてみました。

ドイツグラモフォン UCBG 1084



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

また、CDクリーナーの効果(9)で報告しましたようにPCのストリーミング再生において、PCの液晶画面とLAN iSilencer とルーターに対するCDクリーナーの処理を行っています。今回も、スイッチングハブとルーターのLANポートにフェルトダンブ端子を装着しています。さらに今回も、アースアキュライザーの活用(6)で報告し

ましたようにアースの再構成を実施し、Brooklyn DAC+と仮想アース Crystal E との接続と DA-3000 と自作仮想アースとの接続へのアースアキュライザーの導入と AV ドーナッツの使用などを行っています。

クライバーの指揮は、ベートーヴェン、モーツァルト、ブラームスそれぞれの曲、あるいは楽章の表情に合わせた指揮とオーケストラの表現が変化します。ブラームス交響曲第4番などは、クライバーの表情や指揮の様子を見ているだけで、オーケストラの奏でる曲の表情が分かるようです。このような歴史的な演奏が画像付きで配信されることはありがたいことです。

一方、DVDの方は、STAGE+とまったく同じ演奏ですが、音質はSTAGE+に及びません。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの投入とそれに伴うアースラインの再構成、さらには AV ドーナッツなどの結果、1996年収録とは思えないほど、クライバーの指揮によるベートーヴェン、モーツァルト、ブラームスなどの表現が的確に捉えられています。DVDの方は、音質的にはSTAGE+に及びません。

以上